

今月の星空



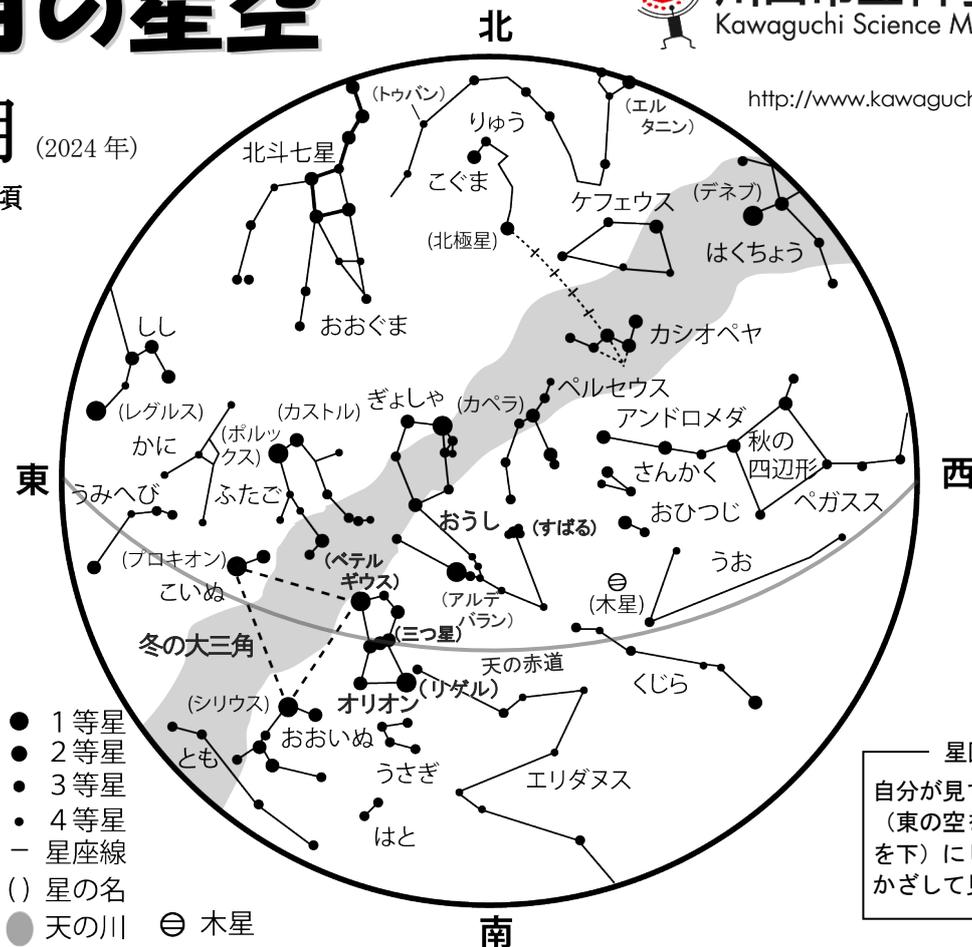
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

1月 (2024年)
中旬 20 時頃



月 齢 ① 下弦 4日、● 新月 11日、② 上弦 18日、○ 満月 26日

惑星情報 水星 日の出前 南東(へびつかい→いて座 0等)※1/3~1/17
金星 日の出前 南東(てんびん→さそり→へびつかい→いて座 -4等)
木星 夜のはじめ頃 南→南西(おひつじ座 -3→-2等)
土星 夜のはじめ頃 南西(みずがめ座 1等)※中旬まで

☆冬の星座が見ごろ～川口市から見るオリオン座はちょうどいい～

四季の星座の中で1等星が最も多く輝く冬の星座が見ごろです。その中でも冬の王者とも言われるオリオン座は、明るい星がバランスよく配置された星座です。オリオン座の脇を固める冬の星座たち——おおいぬ座、こいぬ座、ふたご座、ぎょしゃ座、おうし座は、どれも1等以上の星を持つという豪華な布陣です。川口市から見るオリオン座は、真南に来たときの高さが55度付近であり、低すぎず、また、高すぎない位置にあります。これは、オリオン座が天の赤道^{※1}(星図参照)を通るためです。緯度の高い地域ほど天の赤道とともにオリオン座は位置が低くなり、北極(北緯90度)では地平線付近まで下がります。反対に赤道付近では天頂(真上)を通ります。※1 地球の赤道を空(天球)に延長させた大円。

☆夜明け前の空が見やすい頃

冬至を過ぎて日が長くなっていくとは言え、川口市の日の出は、1月に入ってからが1年で最も遅い午前6時51分(1日～14日)です。午前6時頃まで空は暗く、夜明け前の空が見やすい時期です。

○辰年にちなんで「りゅう座」を見よう…北の空にあるりゅう座は、川口市から見るとほとんどの星が地平線下に沈まず(周極星という)一晩中見ることが出来る星座です。ただし、見ごろは夏で、この時期であれば、最も明るい2等の「エルタニン」の高度が高い夜明け前がおすすです。また、「トゥバン(4等)」は紀元前2700年頃は、地球の歳差運動^{※2}により天の北極近くにあり、当時の北極星でした。

※2 地球の回転軸(地軸)が約23.4度の傾きを保ったまま、コマのように円を描く動き。その周期は約26000年。

○水星を見るチャンス…太陽から大きく離れず、観察の機会が少ない水星は、12日に西方最大離角(太陽から最も離れて見える)を迎え、この頃が観望好機です。特に1月3日～17日は日の出30分前の高度が10度を超えるため、見ごろです。南東の低空にある約0等の水星の近くには、-4等の金星があり目印となります。詳しくは、国立天文台のウェブサイト(<https://www.nao.ac.jp/>)等をご覧ください。